

# 新任の「あいさつ」



輪番 寺井 紹道

## 念仏者の誇りと情熱をもつて

このたび、平成26年4月1日付けにて本願寺西山別院輪番に就任いたしました寺井紹道(てらい しゅうどう)でございます。今まで、南米教団開教使としてブラジルに12年間、帰国して大阪・津村別院(7年間)、広島別院(8年間)、本山宗務所(18年間)、福井別院(3年間)、長崎会館(3.8年間)、大分・別府別院(2年間)、北海道・札幌別院(3年間)、鹿児島別院(1.3年間)のご縁をいただきました。その中で、多くの念仏者の有難くも素晴らしい生き様を目の当たりにし、お念仏の確かさを知らされ、お念仏に出遇えたことを喜ばせていただいております。ご当地は真宗教団の礎を築いて下さいました覚如上人のゆかりの別院であり、その護持発展の任に当たり、身の引き締まる思いであります。

どうぞ、ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。

さて、50年に一度の大法要であります親鸞聖人750回大遠忌法要もご本山をはじめ全国の別院において、滞りなく無事円成し、そして平成26年6月6日に「法統継承式」が執り行われ、専如さまが第25代ご門主に就任されました。

「物が栄えて心が亡びる」といわれ、心の問題がクローズアップされて久しいのですが、その解決は遅々として進んでいない感があり、社会は混乱の度を深めています。このような時にこそ、宗教の役割は重大であり、期待されなくてはなりません。その宗教が期待に応えるところが、人の弱みを利用して信頼を裏切っているとの指摘もあります。今こそ、専如ご門主さまのもと、まことの念仏者(信心の行者)として、「いのち」が尊ばれ、心豊かに生きることのできる世の中、平和な世界を築くために、念仏者の誇りと情熱をもって、手を携え精進いたしましょう。

今後益々、職員共々に精進いたす所存でございますので、何卒ご教導賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

## お朝事にお参りしてみましよう

いよいよ夏本番が近づいて参りました。夏バテや熱中症など、体調を崩しやすい季節でもあります。

西山別院本堂では、毎朝七時、カーンカーンと喚鐘が鳴り、お朝事が始まります。

「規則正しい生活を心がけたい」

「何となく習慣となっている」

「朝の清々しい空気を本堂で感じたい」

お参りに来られている方のお気持ちは百人百様のようです。

「ご本尊へのごあいさつから始まる一日」

実のある一日を送らせていただくこと、先人達が受け継いでこられた尊い習慣であります。

どなたでもお参りいただけます。

また、お経の本は貸し出し用のものを準備してございます。

どうぞお参りください。



晨朝勤行(お朝事)の風景

# 久遠



〒615-8107  
京都市西京区川島北真町  
29番地  
Tel: 075-392-7939  
Fax: 075-394-4416  
発行者: 寺井 紹道

## 法統継承式

専如さまが

### 第25代門主にご就任

第24代即如ご門主から法統を継承され、専如さまが第25代門主に就任されました。2014(平成26年)6月5日午後3時30分から御影堂にて、即如ご門主が「退任に際しての消息」を發布され、両堂閉門後の午後6時過ぎから「御譲渡式(非公開)」が行われました。翌6月6日午前6時から、就任された第25代専如ご門主の調声、即如前門さまご出座のもと晨朝勤行がとめられました。引き続き、専如ご門主による帰敬式が執行さ

れました。そして午前10時より御影堂において「法統継承式」が行

われました。第一部の「法要」では、御譲渡式で継承された紫の式衣に身包まれた専如ご門主、紫紺色の前門衣体を着けられた即如前門さまが入堂され、阿弥陀堂で「無量寿経作法第2種」、御影堂で「広門類作法第2種」がとめられました。この2つのおとめは新たに制定されたものです。第二部の「式典」では、専如ご門主が満堂の参拝者を前に、初めての「ご消息」となる「法統継承に際しての消息」を發布されました。続いて、専如ご門主と即如前門さまが「お言葉」を述べられました。法統継承式を終えられたご門主さま、前門さまは、大谷本廟への「御廟参」を行われました。



# 退任に際しての消息

本日、平成二十六年六月五日をもって、私は本願寺住職ならびに浄土真宗本願寺派門主を退任し、後を本願寺副法・新門に託すことにいたしました。

昭和五十二年四月一日、法統を継承して以来、三十七年二か月になります。至らぬことが多々あった中、今日まで務めることができましたのは、仏祖のご加護は申すまでもなく、宗門内外の方々のご支援、ご理解とご協力のおかげであります。皆様に、心より感謝申し上げます。

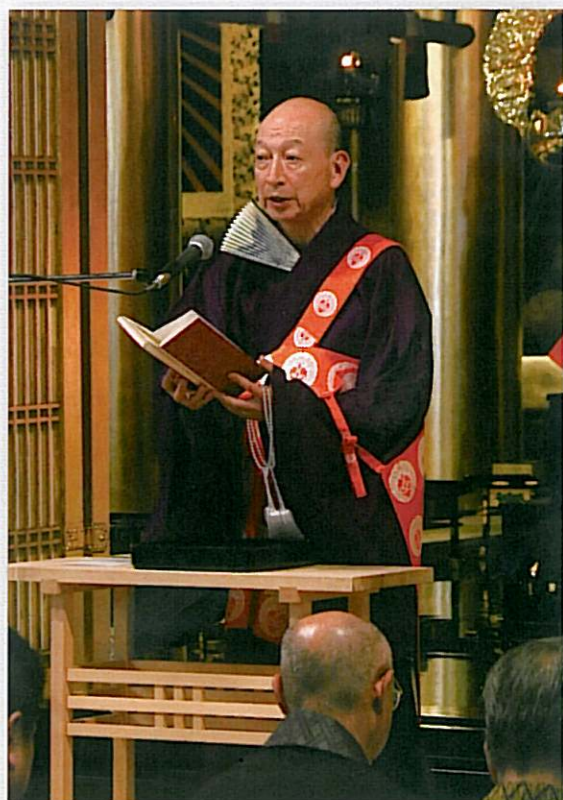
この間、本願寺では、阿弥陀堂の修復、頭如上人四百回忌、蓮如上人五百回遠忌、御影堂の修復、宗祖聖人七百五十回大遠忌等のご縁を皆様とともにすることができました。さらに、北境内地を取得できたお蔭で、活動をより広く展開できるようになりました。また、宗門では基幹運動の推進とともに、さまざまの活動や事業がありました。世界各地にも、お念仏の輪が広がっています。それらを、巡教などによって身近に知り、御同朋の思いを確かめることができましたこと、まことに有

り難く思います。

この三十七年間は勝如前門主の戦争を挟んだ激変の五十年に比べれば、やや穏やかとも言える時代でしたが、国内では大小の天災・人災が相次ぎ、経済価値が優先された結果、心の問題も深刻化しました。世界では、武力紛争、経済格差、気候変動、核物質の拡散など、深刻なあるいは人類の生存に関わる課題が露わになりました。その中で、心残り、浄土真宗に生きる私たちが十分に力を発揮できなかったとは言えないことです。

私たちの宗門は、門信徒一人ひとりに、み教えが受け継がれるという素晴らしい伝統をもっています。これからも、社会の変動の中にあつて、浄土真宗のみ教えや伝統にある多様な可能性を見つけ出し、各人、各世代、それぞれの個性と条件を活かし、特に若い世代の感性と実行力を尊重して、一人でも多くの方を朋とし、御同朋の社会をめざして歩むことができるよう願っております。

後を継ぎます新門主は、築地本願寺で五年九か月の間、副住職を務めて経験を積み見聞



を広めています。今後は、法統を護るとともに、宗門全体を思い、広く宗教界を視野に入れて、務めることとなります。皆様の一層のご支援をお願いいたします。

なお、私は、七十歳まであと一年余りとなりました。先のことは予測できませんが、阿弥陀如来の揺るぎない本願力の中に、宗祖聖人のみ教えを仰ぎ、浄土真宗の僧侶としての務めを、できる限り果たしたいと思っております。

平成二十六年 六月五日  
二〇一四年

龍谷門主 釋 即如

# 法統継承に際しての消息

本日、私は先代門主の意に従い、法統を継承し、本願寺住職ならびに浄土真宗本願寺派門主に就任いたしました。

ここに先代門主の長きにわたるご教導に深く感謝しますとともに、法統を継承した責任の重さを思い、能う限りの努力をいたす決意であります。



釈尊の説き明がされた阿弥陀如来のご本願の救いは、七高僧の教えを承けた宗祖親鸞聖人によって、浄土真宗というご法義として明らかになされ、その後、歴代の宗主方を中心として、多くの方々を支えられ、現代まで伝えられてきました。その流れを受け継いでここに法統を継承し、未来に向けてご法義が伝えられていきますよう、力を尽くしたいと思っております。

宗門の過去をふりかえりますと、あるいは

時代の常識に疑問を抱かなかったことによる対応、あるいは宗門を存続させるための苦渋の選択としての対応など、ご法義に順っていかないと思える対応もなされてきました。このような過去に学び、時

代の常識を無批判に受け入れることがないよう、また苦渋の選択が必要になる社会が再び到来しないよう、注意深く見極めていく必要があります。

宗門の現況を考えます時、各寺院にご縁のある方々への伝道はもちろんのこと、寺院にご縁のない方々に対して、いかにはたらきかけていくのかを考えることも重要です。本願念仏のご法義は、時代や社会が変化しても変わることはありませんが、ご法義の伝え方は、その変化につれて変わっていくか悩まらないうでしょう。現代という時代において、どのようにしてご法義を伝えていくのか、宗門の英知を集める必要があります。

また、現代のさまざまな問題にどのように取り組むのか、とりわけ、東日本大震災をはじめとする多くの被災地の復興をどのように支援していくのかなど、問題は山積しています。「自信教人信」のお言葉をいただき、現代の苦悩とともに背負い、御同朋の社会をめざして皆様と歩んでまいりたいと思っております。

平成二十六年 六月六日  
二〇一四年

龍谷門主 釋 專如